

食味と高温登熟性に優れる水稻極早生

新系統「高育 76 号」の育成

溝渕 正晃・高田 聖*・坂田 雅正・亀島 雅史・吉田 侑平**

“Kouiku76gou”, A New Extremely Early Rice Line with Superior Eating Quality and Grain
Appearance under High Temperatures during Ripening

Masaaki MIZOBUCHI, Sei TAKATA, Mototaka SAKATA, Masashi KAMESHIMA and
Yuuhei YOSHIDA

「高育 76 号」は高知県農業技術センターにおいて、「‘ふさおとめ’／‘コシヒカリ’」の雑種後代より、選抜育成され、2017 年に高知県の奨励品種に採用された。玄米タンパク質含有率が低く食味および高温登熟性に優れる。極早生水稻としては多収の系統である。その特性概要は次のとおりである。

1. 出穂期および成熟期は‘ナツヒカリ’と同熟期で、高知県海岸平野部においては、4 月中旬に移植しても概ね 7 月中に収穫が可能である。
2. 稈長は‘ナツヒカリ’より 4～5cm 長く、穂長はやや短い。耐倒伏性は中程度で‘ナツヒカリ’より劣る。穂数は‘ナツヒカリ’に比べてやや少なく、草型は中間型を示す。
3. 1 穂粒数は‘ナツヒカリ’に比べ多く、収量比率は 118 と高い。
4. 紋枯病、白葉枯病およびごま葉枯病の発生程度は‘ナツヒカリ’と同程度であるが、葉いもちおよび穂いもちは弱い。
5. 高温登熟性は‘ナツヒカリ’と同程度の「強」、障害型耐冷性は同程度の「中」である。
6. 玄米の形状および総合的な外観品質は‘ナツヒカリ’とほぼ同等である。
7. アミロース含有率は‘ナツヒカリ’と同等であるが、タンパク質含有率は 6.8%と低く食味官能評価も優れる。

キーワード：「高育76号」，‘よさ恋美人’，極早生，高温登熟性，良食味，多収